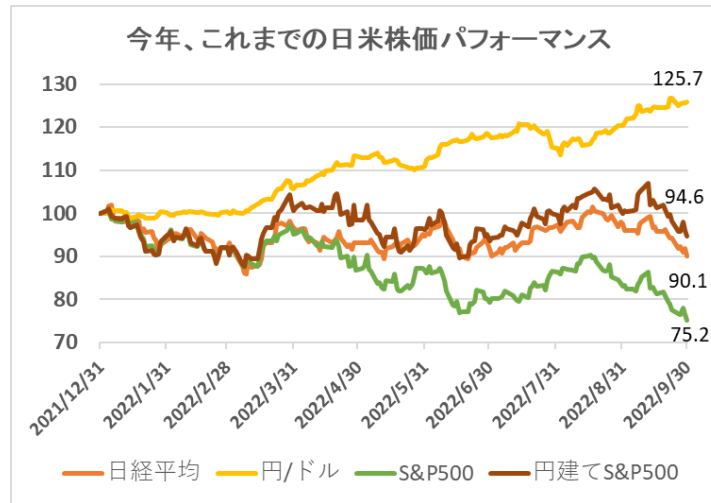


ATTENTION

日米株価パフォーマンスの驚く現実



米国連邦準備理事会(FRB)のインフレ封じ込めのための果敢な金利上げで、激しく動く米国株式市場。今年の米国株はさぞ悪いパフォーマンスだろうと思うことでしょう。実際に年初から9月末まで 米国主要株価指数S&P500は24.8%も下がりました。一方、日経平均は9.0%の下げ。下がったとはいえ、米国に比べて大幅に低い下げ幅です。さて、ここにあるもう一つの右肩上がりの折れ線。そろそろ皆さん、お気づきでしょう。円/ドルの動きです。今年、これまで25.7%も円安になったのです！円で投資する日本人にとっては、米国株の今年の投資パフォーマンスは-5.4%。今年も、円で投資していれば米国株の方が日本株より、パフォーマンスはよかったです。これまで20年、30年と繰り返されてきた米国株投資の優位は、米国株が25%も下がっても、続いているのです。また米国株の配当金は増配とともに、円安でどんどん増えています。こちらも見落とせないところです。しかし、ほとんどの人が「たまたま円安になったからでしょ」とか「円安に救われた」という言葉が出てくるのが想像できます。ただ、これをラッキーと考えるのは、よくありません。「分散」が投資のキーワードですが、為替も、リスク分散の要素の一つなのです。言ってみれば「日本という国のリスクを外に投資して失くす」。また「米国株の下げを、為替(円安)でカバーできる」。国際分散投資は様々な要素でリスク分散を図れるのです。

COLUMN

運動を習慣化させるコツ

私は、もう30年ジムでトレーニングを続けていますが、本当によかったと感じます。自分で実感はあまりないのですが、健康面で特に悪いところはありません。ウェイトトレーニング(上・下半身各8種目)と10キロウォーキングを、一日おきに一つずつやっています。そして、それは習慣化しています。そして終わると、今日もやったという充実感、スカッとした爽やか感、そして心地よい疲労感。疲労回復のため早く寝ようとなります。まさに運動は健康な体の礎です。運動を長く続けるには「いかに始めるか」、意外にここが大事なのです。

運動を始めるときは、小さく始めることが肝心です。30分、1時間もやる必要はありません。最初は5分でもいいのです。いきなり長い距離を走ったり、重いものを上げたりすると、翌日、体中が痛くなったり、熱が出たりして、もうこりごりということがよくあります。小さく始めて、少しずつ多くしていくのです。新たなことを始めるとき、それに適応するのに21日かかり、習慣化するには3か月かかるといわれています。運動でも、その程度はかかるものなのです。そして、運動しないとられないとなれば、しめたもの。運動をする時間を、一日の中で何はともあれ確保して、いそいそと(ドーパミンを感じながら)ジムに通ったり、家の周りを走ったりするようになります。

こういった運動は、(年齢にかかわらず)いつ始めてもよいとのこと。いくつになっても自由に動けて、前向きなスタンスを取れるようになったり、ボケ防止にもよかったりと、いいこと尽くめです。

参考図書: Fitness Habits

MARKET

| | (9月末) | (8月末比) |
|------|-------------|----------------------|
| 日経平均 | 25,937.21円 | -2,154.32円 (-7.67%) |
| NYダウ | 28,725.51ドル | -2,784.92ドル (-8.84%) |
| 米ドル | 144.80円 | +5.80円 (+4.17%) |

私の書棚より

自分の人生にとって何がプラスで何がマイナスかなんて、それが起こっている時には誰もわかりませんよ。どんなことが起こっても、起こったことを自分の人生において必要な経験に変えていくというのが「生きる」ってことです。

-運転者 喜多川泰著

現在の円/ドルレートは、さらなる円安への通過点

円/ドルレートが、9月22日一気に145円台後半に進みました。これは、米国連邦準備理事会(FRB)の政策金利の0.75%の大幅上げで、日米の金利差が拡大。一方で、日銀、黒田総裁は当分金利を上げないと言明、市場が、さらに円安を見越したためです。この時の日銀と財務省の為替水準の認識にずれがあったようで、財務省は、このタイミングで、24年ぶりの円買い介入に踏み切ったのです。円/ドルは一気に5円も円高になり、市場にかなりのショックを与えました。予想外の介入だったのでしょうか。

この円買い介入で果たして円安の流れを止める効果があるのか。私は、かなり懐疑的に見えています。実際に円買い介入により、140円台前半までいった円/ドルレートは早くも2日後の24日には143.30円/ドルと、20日の水準に戻り、現在は144円台後半。円買い介入は、今後実施したとしても効果がない理由をいくつか上げてみましょう。

単独介入・円買い介入は効果が限定的

まず今回の財務省による円買いは、日本単独での介入であり、欧米のバックアップはなく、インパクトは限定的です。米国の本音は、円買いと対になるドル安は、国内のインフレ助長につながり、歓迎しない面があります。また、円買いの原資は外貨準備(8月末1.29兆ドル)で、その額が上限である一方で、日本の為替市場の1日の取引は約3,700億ドル。外貨準備は、その取引高の3日分ほどしかないのです。すぐに介入に使えるドル預金は1360億ドルしかありません。円買い介入は、理論上、売却額の制限のない円売り介入とは違って制約があるのです。

日米金利差は一段と拡大、円売り要因に

日米の金利差は一段と拡大し、低金利の円を売って、高金利の米ドルを買う動きは止まらないでしょう。金利を上げたくても上げられない日本、景気過熱のサインでもあるインフレに果敢に挑む米国、その大きな差を感じます。

今回の円安は、改革を怠った付けが回ってきたもの

さらに、今回の円安の根本的な原因は、これまでうわべだけの政策を行ってきた付けが一気に出てきたと見るべきです。これまで構造改革、財政の健全化が強く求められる中で、小手先の政策運営に終始し、国力の低下がいよいよ顕在化してきたといわざるを得ません。政治家や官僚はまだ気づいていないようですが、今回の円安は、その危険信号にほかならないのです。痛みを先送りし、票目当てのバラマキ、補助金漬け、縦割り行政。うわべだけでやった振り、やっているつもりの行政や政治の膿みが、円安という形で顕在化しているのです。

140円台の円安は単なる通過点

となると、ことは重大で、日本の将来はいよいよ危ういというわけです。日経9月20日の経済教室の論文によれば、2019年以前の長期実質円ドル為替レートは181円だったが、21年以降は日本経済の「体力」が著しく低下し、長期実質レートは270円になっているとのこと。現在の140円台は単なる通過点で、さらに40円、50円の円安もあり得るという見方も出ています。日本の体力低下に、政治家や役人、ほとんどの国民がまだ気づいていないことの危険を強く感じます。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp